オープンカレッジ

生産性向上の決定要因に

経済学における人的資本

名古屋市立大学大学院
経済学研究科准教授
平野　大昌

ひらの・だいすけ　労働経済学。大阪府立大学大学院経済学研究科博士後期課程。

近年、人的資本経営という言葉をよく目にするようになりました。経済産業省のホームページでは、「人的資本経営とは、人材を『資本』として捉え、その価値を最大限に引き出すことで、中長期的な企業価値向上につなげる経営のあり方である」という説明がされており、政策の一つとして推進されています。簡単に言うと、人材に投資し、そこから新たな価値を生み出そうという経営の試みです。また、投資を通して企業の魅力が高まるという効果も期待されています。

さて、人的資本という言葉が使われていますが、人的資本は経済学において労働者の生産性にかかわる要因として考えられており、重要な概念です。そこで今回は、経済学における人的資本について、簡単に解説したいと思います。

まず、経済学では仕事に生かすことができる個人の獲得した知識や技能を人に由来する資本ととらえ、人的資本と呼びます。人的資本の蓄積により、仕事の効率を高め、より多くのものを生み出すことができます。そのため、人的資本は労働者の生産性の重要な決定要因になります。

さらに、人的資本には二つのタイプがあります。一つ目は一般的人的資本です。これは、どこで働く場合でも等しく価値のある人的資本になります。コミュニケーション能力やITスキルなどが該当します。一般的人的資本が多く蓄積されている個人はどこで働いても生産性がある程度高いと考えられます。二つ目は企業特殊的人的資本です。これは、特定の企業では生産性を発揮できるが、それ以外では役に立たないような人的資本です。特定の専門知識や技能の場合もありますが、その組み合わせや社風など無形のものも含みます。

また、個人が知識や技能を獲得しようとする行為を人的資本投資と呼びます。代表的な例としては、学校教育や職場でのOJT、社内研修などが該当します。人的資本投資によって人的資本が蓄積され、個人の生産性が高まると考えます。したがって、個人の生産性の向上、ひいては企業の成長にとって、人的資本投資は重要なものとなります。

個人の立場からは、企業特殊的人的資本は他社では必ずしも役に立たないので、将来転職を考えているならば一般的人的資本に投資した方が良いことになります。一方で、現在は働いている企業でもっと活躍したいと思うなら、企業特殊的な人的資本に投資することも必要になります。

また、企業の立場からは、一般的人的資本に投資を行うと、生産性の向上は期待できますが、どの企業でも通用する能力なので、優秀な人材の流出をまねく可能性があります。一方で、企業特殊的人的資本投資ばかり行うと、従業員の汎用性を失う可能性もあります。

そのため、企業にとって従業員が持つ人的資本がどのようなものなのかを把握し、企業の生産性向上にとって適切な人的資本投資とは何であるのかを考えることがより一層重要になります。このように、人的資本投資は生産性向上に重要ですが、どのように投資を行うのかは個人と企業双方にとって難しい問題です。